



公民館・学供などの有料化・値上げやめよ！

市民のふれあい、 生きがい、健康づくりに打撃

公民館や学供、布袋ふれあい会館などの使用料を無料から有料にするなどの値上げ計画を市が発表しました。

市は4年前にも値上げ・有料化計画を発表しましたが、市民やサークル団体から「これでは活動が続けられない」「高齢者の楽しみを取り上げないで！」「有料化でむしろ市の負担が増えるだけ、意味がない」といっせいに反対の声があがり反対の署名活動も展開されたため、市は断念しました。しかし消費税10%増税時に合わせて実施しようと、今回再度、提案されたものです。しかし有料化により利用者が減ること、公民館などに対する市の役割など、十分な説明がされていません。

発表された有料化・値上げ案（一部）



施設名	現行	改定案	単位
古東公民館（他の公民館も同様）			
会議室	無料	→ 410円	2時間
実習室	無料	→ 340円	2時間
宮田学供（他の学供も同様）			
学習室（1F）	無料	→ 200円	2時間
集会室（2F）	無料	→ 630円	2時間
老人福祉センター（中央コミュニティセンター）			
風呂	無料	→ 100円	1回
会議室1	無料	→ 230円	2時間
蘇南パークゴルフ場	無料	→ 100円	1ラウンド 1人
市営グラウンド（全面）	無料	→ 570円	2.5時間
体育館アリーナ	1780円	→ 2060円	2時間
文化会館第一会議室	2940円	→ 3140円	2時間



老人福祉センターでくつろぐ人たち

無料だから、年金ぐらしでも気軽に利用できます。元気に過ごすための場を奪わないでください。

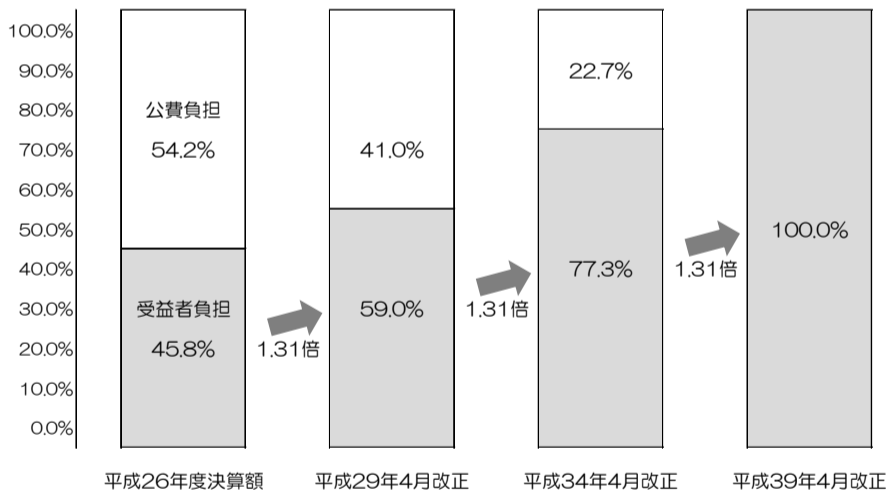
ひきこもり老人をわざわざ増やすのが市の仕事ですか？

使用料の決め方では、4年前の計画時には施設建設費や職員の退職手当費用まで利用者負担に含めようとして強い批判を浴びたことから、今回はこれらを使用料の計算に含めていません。

激変緩和措置として今回の改定では、市がめざす使用料金額の59%に抑え、今後5年ごとに1.3倍ずつに値上げして、平成39年には「受益者負担と公費負担の完全な適正化を目指す」としています。（下のグラフ参照）

改定案の金額が比較的安く抑えられているのは、そのためです。「この程度なら我慢できる」と黙っていると、あとで大変なことになります。

市が考える有料施設の受益者負担率の推移



住民要望が反映される一方、布袋駅周辺の道路に多額の予算

対話重視は名ばかりか

新年度予算は、澤田市長就任後初の本格的な予算で、市長方針が随所に盛り込まれました。「対話を基調とする」市政運営を掲げたはずが、住民の理解を得ないまま推進する施策が目につきます。

3月末、新ごみ処理施設の建設地を、扶桑町の地元区の強い反対を押し切って決定。県から派遣職員も新たに受け入れ、建設に突き進む方針です。

ささやかな福祉削って道路拡張をすすめるのか

高齢化が進行し、在宅介護や地域で支える仕組み作りが求められているときに、寝たきり老人の在宅介護を支援する制度（在宅介護手当、紙おむつ支給、訪問理髪など）の支給対象を介護度3以上であったものを、4・5のみに大幅に削減、カットしてしまいました。



中学生までの医療費無料化（増額分）	4000万円
75歳以上の方の人間ドック・脳ドック 個人負担 人間ドック6400円 脳ドック12000円	1665万円
大半の保育園の調理室にエアコンがない 調理員の健康と料理の衛生	2園にスポットエアコン設置
食物アレルギーの子に対応（保育園）	調理員を加配
布袋駅付近鉄道高架事業	6億1700万円
市道439号線・374号線改良事業	1億883万円
布袋駅エスカレーター設置（上り線）	1億4000万円
布袋本町通り線道路改良（拡幅）	9043万円
布袋駅東地区交通結節点整備	3億5548万円